

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年8月10日(2017.8.10)

【公表番号】特表2016-529232(P2016-529232A)

【公表日】平成28年9月23日(2016.9.23)

【年通号数】公開・登録公報2016-056

【出願番号】特願2016-526507(P2016-526507)

【国際特許分類】

C 07 K	19/00	(2006.01)
C 07 K	16/00	(2006.01)
C 07 K	14/52	(2006.01)
A 61 K	38/21	(2006.01)
A 61 K	47/50	(2017.01)
A 61 K	47/42	(2017.01)
A 61 P	35/00	(2006.01)
A 61 P	37/06	(2006.01)

【F I】

C 07 K	19/00	
C 07 K	16/00	
C 07 K	14/52	
A 61 K	37/66	F
A 61 K	47/48	
A 61 K	47/42	
A 61 P	35/00	
A 61 P	37/06	

【手続補正書】

【提出日】平成29年6月29日(2017.6.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

インターフェロンアンタゴニストと、標的部分とを含む融合タンパク質を含む組成物であって、

前記インターフェロンアンタゴニストは、R120E変異を含むヒトIFN-2であり

前記標的部分は、拮抗的活性の細胞特異的標的化を提供する抗体または抗体様分子からなる、組成物。

【請求項2】

前記標的部分は、ラクダ重鎖抗体の可変ドメイン(VHH)を含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記標的部分は、癌細胞のマーカーを特異的に標的とする、請求項1または2に記載の組成物。

【請求項4】

前記標的部分は、免疫細胞のマーカーを特異的に標的とする、請求項1～3のいずれか

1項に記載の組成物。

【請求項5】

前記標的部分は、レプチン受容体を特異的に標的とする、請求項1に記載の組成物。

【請求項6】

前記標的部分は、CD20を特異的に標的とする、請求項1に記載の組成物。

【請求項7】

前記ヒトIFN-2は、インターフェロンアゴニストの結合活性を低下させる第二の変異を含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項8】

前記第二の変異は、R149AおよびL153Aのいずれかである、請求項7に記載の組成物。

【請求項9】

サイトカインアンタゴニストと標的部分を含む融合タンパク質を含む組成物であって、前記サイトカインアンタゴニストは、R120EおよびL153A変異のヒトIFN-2を含み、

前記標的部分は、CD20に特異的に標的化されたラクダ重鎖抗体の可変ドメイン(VHH)を含む、組成物。

【請求項10】

自己免疫疾患の治療に使用するための、請求項1～9のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項11】

前記インターフェロンアンタゴニストと前記標的部分を連結するためのリンカーをさらに含む、請求項1～10のいずれか1項に記載の組成物。